

市民記者が行く！ 広報サポーターレポート



Fire Fighters

抹茶体験と 国際交流



広報サポーター
神谷麻由さん(行用町)

「おいしいー」「濃厚な味ー」と笑顔で西尾の抹茶を楽しんだのは、姉妹都市ポリルア市のプリマートン消防団6人の皆さん。10月1日から4日間、西尾市を

訪問されました。西尾の文化にふれ、消防活動を視察、体験するということで、取材させていただきました。

ポリルア市は、ニュージーランドの北島の南部にある人口約5万人の都市で、西尾市とは20年以上にわたり、中学生や高校生の親善訪問を中心とした交流が盛んに行われてきました。今回訪れたのは消防団員の皆さんで、普段は教師やコンサルタント、映画監督など、それぞれ別の職業を持ち、全員がボランティアで活動しているそうです。しかし、制服や活動内容、責任も全て本職の消防士(Fire Fighter)と全く同じだというのです。日本の消防団をイメージしていましたが、その概

念を大きく覆されました。中でも特に印象的だったのは女性の参画でした。ポリルア市の消防団員は4人に1人が女性団員だそうです。「性別ではなく、ダイバーシティ(多様性)の考え方の一つだから職業も人種も何も問題ない。地域を守るという強い思いと仲間との絆がそこにはあるの」と、プリマートン消防団最年長であり、初の女性消防団員でもあるトルディー・キャンベルさんは語ってくれました。

消防署では、はしご車や救助資機材などを使った合同訓練や、消防署の設備、消防車両などの見学をしていました。正座に挑戦しながら、和菓子とお抹茶を楽しんでいたときの和やかな雰囲気とは印象が変わり、リリしく、真剣なまなざしで取り組んでいました。「充実した技術や設備、そしてプライドを持って取り組む西尾の消防士の姿に感銘



2. 消防車を使用した放水訓練 3. 油圧カッターを使用した救助訓練
4. はしご車の前で整列。まるで映画のワンシーンのようでした

を受けました」と、訪問団長であるトニー・サトリアスさんは話してくれました。ポリルア市長は31歳と聞きましたが、その若いリーダーを、プリマートン消防団員のような経験豊かで地域を愛するさまざまな世代の人々の活動が支えているのでしょう。今回、抹茶のおもてなしと国際交流から、たくさんのごことを学ぶことができました。広報サポーターは公募により選ばれた市民記者です。これからも市民の目線で市内各地のイベントなどを取材していただきます。



1. プリマートン消防団の皆さん。前列右が女性団員のパイオニアであるトルディーさん。後列左が訪問団長のトニーさん